

環境経営

NECの環境経営

NECは、企業の社会的責任としての自らの事業活動に伴う環境負荷低減のみならず、製品・サービスの提供を通じた社会全体の環境負荷の低減にも貢献し、持続可能な社会の実現に向けた「環境経営」を推進しています。環境への取り組みは、自らのリスク低減のために必須であると同時に、事業機会の創出にもつながるものであり、NECの経営における重要なテーマの1つです。

1970年に環境分野の専門組織を立ち上げ、以降、当社は長きにわたり環境リスク低減の努力を続け、ICTを活用して環境問題の見える化・対策に尽力してきました。この歴史は現在も私たちの環境への対応の礎となっており、積み重ねた実績と知見に裏づけされた先進的な取り組みは、外部からも高い評価を得ています。

🌐 NECの環境経営の詳細は、下記をご参照ください。
https://jpn.nec.com/ir/pdf/library/250217/250217_01.pdf

環境への取り組み

気候変動対策に関する取り組みとして、NECは2040年にカーボンニュートラルを実現することを宣言しています。NECグループ丸となって多岐にわたる活動を展開し、自社の活動 (Scope1,2) だけでなく、サプライチェーン全体 (Scope3) を対象に、CO₂排出量の削減に向けた取り組みを進めています。Scope1,2については、計画的な省エネルギー設備への切り替えや運用の効率化によって、消費電力の無駄を徹底的になくす取り組みを進めています。加えて、RE100に加盟し、事業活動で使用する電力への再生可能エネルギーの利用拡大にも取り組んでいます。2022年度からは本社ビル (東京都港区) およびクラウド基盤サービス「NEC Cloud IaaS」のデータセンターにおいて、実質的に、事業運営に必要な電力すべてを再生可能エネルギー由来に置き換えています。

また、NEC全体の温室効果ガス排出量の中でも大きな割合を占めるScope3カテゴリ1の削減に向けては、調達取引先との協働・共創を強化しています。例えば、CO₂排出量が多くNECのサプライチェーンの環境への影響度が高いと想定される調達取引先を優先的なエンゲージメントの対象として特定し、当社が策定したガイドラインのステップに則り、伴走型で支援しながらCO₂排出量削減

活動を推進しています。排出量が算定できていない調達取引先向けには可視化ワークショップの実施、また削減目標が未設定の調達取引先にはSBT認証取得の支援なども行っています。NECは今後もこれらの取り組みを通じて、お客さまやパートナー企業をはじめとするさまざまなステークホルダーとの連携を強化し、2040年のカーボンニュートラル実現を目指していきます。

自然資本に関する取り組みとしては、TNFD (自然関連財務情報開示タスクフォース) に基づいた情報開示にもいち早く取り組んでいます。2023年7月には、国内IT業界で初めてとなるTNFDレポートを発行しました。これは、長年にわたる環境への取り組みに裏づけされたNECのICTソリューションを活用し、自然資本と事業活動の関わりを可視化・分析したことにより実現したものです。世界的にも前例が少ないことから、当社はさまざまな国際会議で登壇し、自らの取り組みを積極的に共有しています。こうした活動を通じて、企業によるTNFDフレームワークに基づいた情報開示が広がるよう働きかけるほか、政策提言にも努めています。2024年6月の第2版発行を経て、2025年8月には当社の強みであるAIを活用して制作した第3版を発行しました。

CDP 気候変動・水セキュリティ



6年連続最高評価

気候変動および水セキュリティに関する先進的な取り組みにより CDPから最高評価「Aリスト」企業に6年連続選定

CDP サプライヤーエンゲージメント評価



5年連続最高評価

サプライヤーエンゲージメント・リーダーに選定

環境経営

環境クライアントゼロ戦略

NECは、製品・サービスを通じた環境負荷低減にも注力しています。昨今の生成AIの急速な普及に伴い、データセンターの消費電力増加への懸念が高まる中、当社は自らの主要データセンターにおいて、より効率的な冷却を可能とする水冷対応サーバの受け入れを開始しました。また、自社開発の生成AI「cotomi」においては、GPUの演算効率を高めることで生成AI使用時の消費電力削減につなげる技術の開発を進めています。

こうした取り組みは、環境事業において自らをゼロ番目のクライ

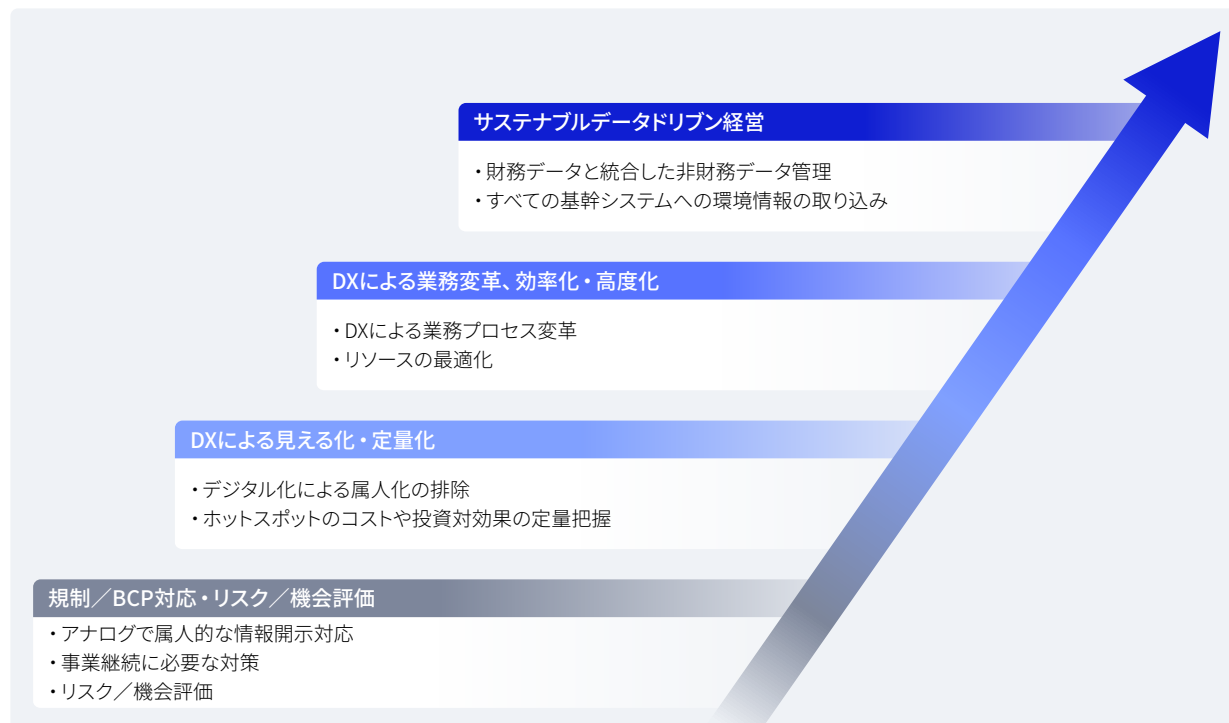
アントとして位置づけ、先進的な技術・取り組みに挑戦する「環境クライアントゼロ戦略」に基づいています。取り組みを通じて蓄積された知見やノウハウは、お客さまの環境分野における課題やニーズにも応えるものだと考えています。

この環境クライアントゼロ戦略を加速するため、NECは2025年に、環境、品質、調達など、従来は縦割りであった各機能を統合し、サステナブルなサプライチェーンの実現に向けた機能横断的な変革に挑戦しています。環境をはじめ、サプライチェーンに関わる

経営課題が複合化・複雑化する中、自らが柔軟に同領域の課題解決にあたるとともに、そのノウハウをお客さまの経営課題解決にも役立てていきます。

環境クライアントゼロ戦略は、当社が掲げるBluStellarの価値創造モデルにも合致するものです。今後も自らの先進的な取り組みを通じて、企業価値向上を図るだけでなく、お客さまの環境経営の課題解決に伴走し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

サステナブルなデータドリブン経営に向けて自らの取り組みを進化させることで、お客さまへの提供価値を拡大



Column

AIを活用して環境クライアントゼロ戦略をより強固なものに
～TNFDレポート第3版へのAI活用～

NECは、AI技術の活用による業務変革と価値創出を強く意識し、日々の業務に取り組んでいます。2025年8月に開示したTNFDレポート第3版の作成にあたっては、これまでの開示実績とグローバル連携で培った知見を基盤とし、調査、リスク評価、機会評価、執筆、広報などのタスクにAIを活用することにより、効率化と高度化を実現しました。例えば、リスク評価を行う際には、AI活用により拠点ごとの水インフラに関するローカルリスクを分析し、資料作成を自動化したことで、事業拠点や関係者と実態に即した対話が可能になりました。また、調査タスクでは専門ガイダンスの読み込みにかかる時間を92%削減するという大きな成果が出ています。今後も情報開示に率先して取り組むとともに、「クライアントゼロ」の取り組みで蓄積した実績・ノウハウを活かし、企業変革を支援していきます。

🌐 TNFDレポート第3版の詳細は、下記をご参照ください。
https://jpn.nec.com/press/202508/20250829_01.html